

## H25.3.24 入門者研修（香川） 感想

私は、就職して2年目になりました。急性期病院に勤めて、いろいろな疾患の患者さん持たせてもらう中で、緩和ケアチームが介入している方を何人か持たせて頂いたことがあります。終末期の予後が数日・数か月となっている患者さんに対して、どういう風に接していけば良いのか、作業療法士としてなにが出来るのか、などとても悩みました。自分の行っているコミュニケーション・接し方、またリハビリテーションが正しいものか疑問だけで、これで良いのか不安になりながら介入していました。この時から、緩和ケアに興味を持ち、緩和ケアについてもっと勉強していきたいと思うようになり、終末期・緩和ケア作業療法研修会があることを知り、申込み致しました。

当日は、香川県での開催でしたが、他県から多くの作業療法士の先生方が見られており、遠いところだと北海道から来られていて、とてもすごい研修会だと思いました。研修会内容としては、作業療法士としてまだ2年目の私でもとても分かりやすく、丁寧な講義で、朝から夕方までの研修会でしたが、あっという間でした。

医師・副院長渡邊先生は、緩和ケア患者の身体的苦痛において、癌の部位による症状や身体的に表れる疼痛や呼吸困難感などに対する治療方法など、基本的なことを教えてくださいました。

精神科医岡村先生は、緩和ケア患者の精神的苦痛において、適応障害やうつ病との鑑別方法から患者さんとの接し方、対応などを症例報告を加えて、詳しく教えてくださいました。

緩和ケア認定看護師石崎先生は、社会的苦痛について教えて頂き、がん患者が社会からの孤独を感じているということを初めて知り、社会適応できる能力の回復をしっかりとサポートすることの大切さを学ぶことができました。

作業療法士三木先生は、作業療法士の専門性でもある、精神面への作業療法士の関わりや作業を通して、患者さんのリハビリテーションを行っていく、作業療法士にしか出来ないリハビリテーションの素敵さを再認識させてくださいました。

作業療法士東谷先生は、スピリチュアルペインについて、とても難しい内容だと思いましたが、傾聴することや会話にしっかりと意識を向けることの重要性、スピリチュアルペインをしっかりと理解する重要性を教えてくださいました。

今回の研修会を終えて、作業療法士という職業の素敵さを再確認することができ、作業療法士にしか出来ない、精神面のフォローや作業導入がしっかりと出来るように、もっと勉強していかなければいけないと思いました。また、作業療法をしっかりと病院内の医師・看護師・コメディカルに知ってもらえるよう、自ら積極的に緩和ケアの場に介入していきたいと思いました。なにが正解なのか、分からない分野だからこそ、難しい部分がたくさんあると思いますが、その反対に患者さんから学び、成長していける場でもあると思いました。患者さんの終末期に自分が介入できたことを不安に思わず、患者さんをしっかりとケアできるよう、これからも緩和ケアについて学んでいきたいと思えます。また、次回も是非参加させて頂きたいと思いました。

（高松赤十字病院 OT 多田奈津美）